

明治学院大学

心理学部 付属研究所

诵信

発行: 2019年3月1日 明治学院大学 心理学部付属研究所 所長 緒方 明子

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37 TFI .03-5421-5445



研究所の役割

1990年に、本学の文学部に心理学科が設立されました。現 在の心理学部の前身です。文学部教職課程に所属していた神 保信一先生(教育心理学・学校カウンセリング)、金子健先生 (特別支援教育学)が中心になって創設されました。なぜ29年 前に思いを馳せたのか…心理学科創設にご尽力された神保信 一先生が、2018年、クリスマスイブの早朝に逝去されたからで す。神保先生は長年に渡り、『学校カウンセリング研究会』を 通して、多くの心理支援力のある教員を育ててこられました。 今でも神保先生の勉強会に参加されていた先生方に出会うこと があり、私が明治学院の教員だと分かると、神保先生の研究会 で学んだ日々のことをお話されます。そして、どの先生も子ども たちのニーズに応じた支援ができるようにと日々勉強を続けて いらっしゃいます。

心理学科設立当初は、心理学部や付属研究所にまで成長し ていく姿を想像することは難しかったかもしれません。しかし、 当時の先生方が目指していたものは心理学部付属研究所の役 割と重なっているように思います。それは、心理学の知見を蓄 積していくことだけではなく、それを人への支援に役立てるこ と、心理支援力のある人材を育てることであると思います。公 開セミナーや出版物を通して本研究所が蓄積してきた知見を 知ってもらい、活用してもらうことができるような活動を所員全 員で進めていきたいと思います。

相談・研究部門主任挨拶

心理学部付属研究所相談・研究部門(心理臨床センター)は、カウンセラー2人、アシスタントカウンセラー(1、2年目)4人、助手、教学補佐、受付、それと週1のカウンセラーと時々やってくる専任教員で成り立っているが、前線部隊は、前者6人、大学院の院生12~15人程度とスパーバイザー(非常勤講師)5人です。学生からベテランカウンセラー、教員まで同居する極めて複雑な組織であり、組織を運営することは大変だなと日々実感しています。ただ、心理臨床センターの目的は、クライエントの支援と

学生の教育であり、その点では一致しています。しかし、それ以外にも、特別支援プログラムの実施、スタッフ研修、セミナー企画・運営などがあり、多忙な毎日の中で皆さん仕事をしています。 いよいよ、公認心理師の時代に入りました。今後、公認心理師に何が求められているのか、地域のニーズをしっかり把握した上で、丁寧な対応をしていかなければならないと感じています。

阿部 裕

相談・研究部門報告(心理臨床センター)

2018年度は、アシスタント・カウンセラーが2人交代、助手も新顔になりました。ここ数か月、新規クライエントの依頼が多すぎ、現在、新規ケース待機中という状態です。うれしい悲鳴です。それだけ心理臨床センターが地域に認知されたということでしょうか。依頼ケースは、港区や目黒区に限らず、東京23区と横浜、川崎といった広く、神奈川県にもわたっています。また、内なる国際化でもしばしば問題にされますが、外国籍の子どもたちや国際結婚のケースも目立つようになってきました。

センターの中心的役割は、大学院生の臨床教育と、クライエントへの査定および心理支援であることはこれまでと同じですが、 今後はグローバル化が進む中、国際的視野からの心理教育支援 が求められると思われます。もちろん、それ以外にも、発達障害 の子どもおよびその母親を支援するプログラムの実施、臨床的 研究、特別プロジェクトとの共催イベント、あるいは独自のセミナー企画・運営、年報の発行など、今年度も昨年以上に活発な 活動を行いました。今後、心理臨床センターの幅広い領域での ますますの発展を願っています。

阿部 裕

• 2017年度心理臨床センター利用者数(延べ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初回面接	7	14	8	11	3	6	9	1	6	7	8	4	84
継続面接	138	165	180	185	140	172	171	162	146	167	171	192	1989
心理検査	5	3	1	5	13	3	5	2		6	3	5	51
PDD の子ども向け グループプログラム	5	3	2	4				2					16
親の会「ゆりの木」		6		10		3			9		5		33
余暇活動支援		8			9	7	7		7		14		52
合計	155	199	191	215	165	191	192	167	168	180	201	201	2225

● 2017年度新規受付ケース相談分類

	件数		件数
学校・園生活	9	職場問題	3
発達面	21	精神疾患	8
友人関係	2	その他	3
家族問題	8	不明	17
暴力・暴言		合計	83
自己理解	12		

明治学院大学心理臨床センター

[予約電話] 03-5421-5444

【受付時間】月〜土曜日 午前10時〜午後5時30分 【ホームページ】http://psy.meijigakuin.ac.jp/clinic/ *ホームページからご相談の予約はできません。お電話のみの受付となります。

調査・研究部門主任挨拶

2018年度も所員による様々な研究活動が行われました。特別研究プロジェクトは2件とも継続プロジェクトであり、継続的な活動だからこその蓄積がなされています。いずれのプロジェクトも所員と学外研究員の協力のもと研究が行われており、コミュニティ支援、多文化ユース支援といった実践が多くみられました。萌芽研究プロジェクトは当初予定の2件に加え、新たに3件が追加されました。これらの研究活動を通じて、今年度は心理学と教育発達学に関する幅広い領域の研究、また専門を異にする所員による共同研究が進んだことも成果であったと考えます。

教育・研究公開に関する活動としては、本年度、公開セミナー「多様性に開かれた心理臨床・教育実践のために一多様な関係のなかの『私』を考える一」(8月4日)、研究・実務のための心理データ解析研修会「IRデータの基礎分析と可視化」(11月17日)、ロールシャッハテスト研修会(年5回)を開催しました。ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。今年度の振り返りをもとに、次年度に向け新たな企画を考えていきたいと思います。

渋谷 恵

調査・研究部門報告

特別研究プロジェクト

● 心理臨床センターにおけるグローバル化 および内なる国際化に関する探索的研究

研究代表者 阿部裕(教授)

研究構成員 杉山 恵理子 (教授)、緒方 明子 (教授)、渋谷 恵 (教授)、 鞍馬 裕美 (准教授)、倉本 英彦 (研究員)、 榊原 佐和子 (研究員)、津田 友理香 (研究員)、 田中 ネリ(研究員)、李 創鎬 (研究員)、横澤 直文 (研究員) ● 本研究所の地域貢献のあり方に関する探索的研究

研究代表者 緒方 明子(教授)

研究構成員 小林 潤一郎 (教授)、宮崎 眞(教授)、 川渕 竜也 (研究員)、心理臨床センタースタッフ

萌芽研究プロジェクト

✔ 音楽活動の高齢者の生活にあたえる影響

研究代表者 水戸 博道(教授) 研究構成員 金城光(教授)

▼ 認知症高齢者とその家族介護者を対象とした 心理教育/援助プログラムの効果検討

研究代表者 森本 浩志 (准教授)

研究構成員 野村 信威 (准教授)、松田 崇志 (研究員)

◆ 若年犯罪被害者遺族の主観的評価に基づいた 有用な支援の検討

研究代表者 宮本 聡介(教授)研究構成員 小林 麻衣子(助手)

学びの一貫性を実現する幼小接続期 カリキュラムに関する研究−幼稚園・領域と小学校・教科に焦点を当てて−

研究代表者 根本 淳子(准教授)

研究構成員 辻 宏子(教授)、手塚 千尋(研究員)

✓ 幼児期・児童期における STEAM 教育に関する 基礎的研究

研究代表者 辻 宏子(教授)

研究構成員 水戸 博道 (教授)、杉山 雅俊 (助教)、 根本 淳子 (准教授)、手塚 千尋 (研究員)

研究助成プロジェクト

○ 教師志望学生の教師能力観に関する研究

研究代表者 杉山 雅俊(助教)

公開セミナー・研修会報告

公開セミナー & シンポジウム

多様性に開かれた心理臨床・教育実践のために



2018年8月4日(土)開催 第一部:講演 多様性に開かれた心理臨床・ 教育実践の課題

-立場と特権の心理学の観点から-

第二部:講演とワーク 多様な関係のなかの 「私」を考える

出口 真紀子(上智大学外国語学部 准教授) 水木 理恵(福島県立医科大学放射線医学 県民健康管理センター 助手) グローバル化が進むなか、心理・教育・障害科学などに関する臨床の場でも多文化への対応が求められています。こうした観点から、今年度の公開セミナーは「多様性に開かれた心理臨床・教育実践のために一多様な関係のなかの『私』を考える一」をテーマとして設定し、8月4日に開催しました。当日は、学生・大学生、カウンセラー、団体職員、行政関係者、日本語支援に関わる方など、定員の60名を超える多くの皆さんの参加があり、多様な他者と向き合う際に自分自身の立場や経験を振り返る必要性について講演とワークを通じて学ぶことができました。今後も心理学部における研究の知見とネットワークを生かし、研究と実践の課題に応えるセミナーを継続していきたいと考えています。

渋谷 恵







研究・実務のための心理データ解析研修会 「IRデータの基礎分析と可視化」



2018年11月17日(土)開催 Rによる基礎集計と視覚化 川端一光(明治学院大学心理学部准教授)

学生調査の設計とデータ分析 -集団間の比較と個人内変化のとらえ方(分散分析)-脇田貴文(関西大学社会学部心理学専攻教授)

パッケージggplot2による 作図とデータの分類手法

岩間 徳兼 (北海道大学高等教育推進機構講師)

時における変化について検討することができる「分散分析」について 説明・解説を行います。 手間をかけずに美しい図を作成でき、層化した図(例えば、学年別の

統計解析環境Rによる多変量データの集計法について基本関数を

中心に解説します。また、多重クロス集計表を視覚的に把握する手法

IRデータの1つである学生調査の設計に関して、事例をもとに検討を

行います。また、学部や入学種別のような集団間比較、入学時と卒業

「コレスポンデンス分析」について実践手法と理論を解説します。

手筒をかけずに美しい図を作成でき、層化した図(例えば、字年別の棒グラフ)も簡単に描けるパッケージggplot2の関数の使い方を解説します。また、データの特徴から対象を似たもの同士のグループに分けるための分析手法「クラスター分析」について、分析方法や理論の概要を解説します。

2018年11月17日(土)に「研究・実務のための心理データ解析研修会」が開催されました。本年度のテーマは「IRデータの基礎分析と可視化」です。岩間徳兼先生(北海道大学高等

教育推進機構)、脇田貴文先生(関西大学社会学部)を講師としてお招きし、IR業務で求められる基本的なデータ解析技術や調査票の設計法についてご講演頂きました。

川端 一光





